

平成31年度 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

「社会教育主事等専門研修」

平成31年4月23日(火) 会場(青森県総合社会教育センター 第1研修室)
受講者数 33名

平成31年度生涯学習・社会教育関係職員研修講座における「社会教育主事等専門研修」を4月23日(火)に当センターで実施しました。

本研修講座は、社会教育主事が配属されている全ての市町村教育委員会や指定管理者等その他の関係機関等の職員を対象として社会教育主事の果たすべき役割等について学び、社会教育主事としてのスキルアップをねらいとしています。今回は、国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 総括研究官の志々田 まなみ 氏を講師にお迎えし、「地域学校協働活動における社会教育主事の役割」をテーマに午前中は講義、午後は演習「学校と社会をつなぐには」と題して、地域・学校・行政それぞれの立場から、学校と地域の連携を進めていくためのポイントについて御講義いただきました。

1. 講義：「地域学校協働活動における社会教育主事の役割」

【概要】

1：「新たな社会“Society5.0”に向けて」

(1) これからの社会

・10～20年後に、日本の労働人口の約49%が就いている職業において、人工知能やロボット等が代替することが可能との推計結果が出ている。(2015年12月02日株式会社社野村総合研究所)



・今起きている教育制度の変化は、Society5.0にむけた人材育成のための教育の一環である。

・これまでは、短期間に大量の子どもに、大人になるまでに必要な知識をなるべく分かりやすく教えるのが学校であった。今後は「情報化の社会」に向け、「自分で何ができるか」を考えられる力をつけていかなければならない。

(2) 学校教育と社会教育の協働

- ・社会教育には、社会教育に「興味・関心」のある人がやってくる。
- ・社会教育には、自分の子どもにいろいろな体験をさせたい人だけが参加している。
- ・社会教育には、学校教育では体験できないことや、多様な人達とふれ合いたい人がやってくる。

これからの社会に今、求められている「地域と学校の連携と協働」の実現には、「学校の力」も必要、「社会の力」も必要である。それを使って新しい教育に向かって「何ができるかを考える大人のチーム」を作っていくことも社会教育主事としての大事な役割の1つである。

【講師】志々田 氏



【講義の様子】



2：「地域学校協働活動における社会教育主事の役割」

(事例1) 島根県鹿足郡吉賀町の取組

・教育振興計画の柱の1つに地域学校協働活動を位置付けて“ふるさとでの学びや、体験をもとにした、明日の吉賀町を支える人材の育成”を行っている。振興計画刷新の際に社会教育を認められる教育計画を立てることも、社会教育主事としての大きな役割の1つである。

(事例2) 広島県府中市立国府小学校、国府公民館の取組

・地域のつながりを深める公民館祭りの参加者が少ないという、地域課題を解決するために、小学校6年生たちが、地域の祭り（公民館祭り）と小学校の行事（学習成果発表会）を合わせた「国府演 JOY 祭り」（こくぶエンジョイまつり）を立ち上げ、その企画・運営を総合的な学習の時間等を使って実行した。子どもたちは自分たちの企画をCS 委員やPTA 役員、公民館職員等にプレゼンテーションし、周囲からの協力を得ながら祭りの準備を進めていった。

- ・こうした子どもたちへの関わりや支援について、地域の大人たちも地域のつながりについて考え行動できるよう支援していくことも社会教育主事としての役割の1つである。
- ・地域と学校を同じ土台にのせる動機付け、遠くに感じるものを身近なものにさせるのが社会教育主事である。

2. 演習：「学校と社会をつなぐには」

午後の演習は、「地域学校協働活動」に関して、志々田氏に「地域の方々」と「学校関係者」から寄せられる質問・お悩み各9項目の中から、当事者意識を感じる項目をベスト3を選び、選んだ理由や経験談を話し合う活動からスタートしました。

その後、グループ内で「地域」「学校」それぞれの項目からお悩みを1つずつ選び、その項目の解決策について話し合いました。

志々田氏からは解決案検討のポイントとして、次の4つのアドバイスをいただきました。

①これまでの経験や身近な実践事例を生かす。②社会教育主事としてできる支援を中心に。③具体的な提案になるように。④意識を変えるのは難しい。「ステップ・バイ・ステップ」で考えていく。以上のアドバイスをもとに受講者の皆さんは解決策について「話し合い、まとめ、発表」することで地域学校協働活動における質問・お悩みについて当事者意識を持って演習に取り組むことができました。

【グループでの話し合い】



【志々田氏による助言】



【まとめの発表】



4. 受講者の感想

・ボランティアとしての枠組みを、いかにして学校組織と協力して任せて行くのが重要であることを認識しました。地域コーディネーターを設置していくというよりも、学校地域の「意識の変化」を社教主事として改変していくことが重要ではないかと感じました。

・教育行政の動向が分かり、ためになりました。地域との協働を進めるために、お互いを知り、情報を共有するために現場に出て、丁寧な説明に努めたい。

・学校との連携は難しいです。でも、少しでも進められるよう、子どもの笑顔を地域や学校の先生と一緒に見られるよう、動いていきたいと思いました。

・地域学校協働活動の必要性について講師の実体験等を踏まえてお話し下さり分かりやすかった。いくつかの実例を聞いて、取り入れられそうなものから取り組んでみたいと思った。